

藤七温泉

八幡平で雪を忍ぶ

藤七温泉は、東北地方北部で最も標高の高い場所にある温泉です。藤七温泉は、八幡平山頂からわずか 200 メートル下の標高 1,400 メートルに位置しています。この温泉が発見されたのは 1928 年、宿に通じる道路の整備が進み始めるよりずっと前のことだったので、人々はこの宿の最初の建物を建てるため、資材を担いで運び上げなければなりませんでした：宿は 1932 年に開業しました。

「国立公園内では、1960 年代に道路の整備が始まりました。その道路のおかげで、それまでは徒歩でしか辿り着けなかった八幡平山頂に、車で行けるようになりました。人々はこのことを、ペリー提督が黒船を率いて日本にやってきて開国させたことに例えました」と、四代目経営者の阿部孝夫さんは冗談を言います。最初の湯治棟が新道路開発のために解体されたことをきっかけに、藤七温泉は自炊しながら長期滞在する従来の湯治場から、食事を提供する旅館へと完全に転換しました。

八幡平に登る二本の道路（樹海ラインとアスピーテライン）はどちらも 10 月下旬から 4 月まで閉鎖されるため、藤七温泉も休業となります。「毎年 10 月末には宿を閉め、雪避けのために窓ガラスに板を貼り始めます」と孝夫さんは言います。「脱衣所や囲いなど小さな建物は、雪に潰されないように解体し、風呂に湯を引くパイプも全て取り外します。道路が閉鎖されるまで 3、4 日しかありませんから、必死で作業しなければなりません」

しかし、本当に大変なのは、4 月中旬、月末の藤七温泉の営業再開に向けた準備をする時です。

まず、孝夫さんは道路を管轄する 2 県から道路使用の許可を得なければなりません；この時点では、道路はまだ山の中腹あたりまでしか除雪されていません。孝夫さんと従業員たちは、車で行けるところまで行き、北極探検家のように必要なものをすべてそりに載せて雪をかき分けながら旅館へと向かいます。

「ここに着いたら、建物へと続く道を雪かきしながら進み、風雪による被害がないかチェックしなければなりません。雪は実際に建物を押し潰すほどの重さがあります！5 メートルの雪が軒先まで積もっていることがあり、多い時には 8 メートル以上の高さにまでなることもあります。でも、実は雪は風から屋根を守ってくれるので、雪が深ければ深いほど被害は少なくなります」と孝夫さんは説明します。